

爆たり
四中
学校たより

MUIGAKULAI

14日

12月20日(金)



大人になっていく きみたちへ...

大人になるまじに
身につけてほしい
「察する心」

先週、2年生と一緒に修学旅行に行きました。バスの中では、

ガイドさんの話にこたえたり、歌にあわせて手拍子をしたりと、とてもアムホームな感じで温かい
感じの旅でした。そんな中、感心した出来事が... 私が風呂場の指導で脱衣所にいた時、

入口でしゃがんでモクモクしている男子がいました。「ん?何かな?」と思って見てみると、ドラバラに
なっていたスリッパをきれいに並べ直してしまっていたのです。気づいて動けず

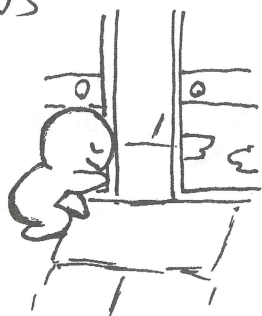
すばらしいですね!! そこで今回は、皆さんに「察する心」についてお話しますね。私が
以前、日本に伝わる礼儀作法について聞いた話です。

『何のために礼儀作法が大事なのか?』

例えば「ふすまを開けて中に入る」という作法。どういう作法でふすまを開けるかとい
うと、まず開けようとするふすまの前に正座をして、「失礼します」と声をかけます。次に
両手でふすまをちょっとだけ開けます。続いて、その手をふすまのふちに沿って下の方に
下げて、もう少しだけ開けます。その後、ゆっくりと全部開けてから
中に入るのです。「そんな、いいじゃん、立たまま開けて入れば、」

と思うかも知れませんが、意味があるんですね。日本の建物は
ふすまとか障子でしょ? 鍵がかからないんですね。いきなり、

バーッと開けて入ろうと思えば入るんですよ。➤



でも、それをしないのが「日本の文化」なんです。いきなり開けたら、中の人ゴロゴロ
しているかも知れません。そんなところ突然入られたらびっくりするじゃないですか。恥ずかし
い格好を見られて恥をかいてしまいますよね? だからそうさせないために礼儀
作法があるんです。まず、少しだけふすまを開けることによって、「これから入りま

す」ということを相手に伝えるんです。次にふすまの下の方に手を下げるのですが、

手を下げることによって、自然と視線が下がるわけです。視線が下がった状態
ですから、もう少しふすまを開けても、中を見なくてすむんです。中を見たら、また

準備ができていないかも知れないじゃないですか。そこで、下を見たまの状態で
『相手の気持ちを察しようとする文化』なんです。私は、これは最高峰の

コミュニケーション文化だと思います。例えば、みなさんが、担任の先生の気持ちを
察したら、「ここでどんなにアクションをしたら、担任の先生は嬉しいのかな?」って考えて
行動してくれますよね? こういった行動ができる人って最高だと思いますか?

将来、仕事をする時、上司が何を言いたいのか、言葉ではそんなに具体的なことは
言わないかも知れませんが、でも、そこで「上司は何を言いたいのかな?何をしてほしいの
かな?何のためにこの仕事をするのかな?」と察することができたら、すばらしいですね。
想像してみてください。将来仕事をしていて、自分の仕事が終わって帰ろうかな?と思った
時にふと見たら上司が次の日の会議の準備をしていたとします。

あなたなら、どうしますか?

←ううん

そう、多くの人は「何かお手伝いすることありますか?」って聞いて、上司が「川よ川よ、大丈夫だから、」ってなるのが一般的だと思います。

でも、もしかしたら、本当は手伝ってほしいと思っているかも知れません。かといって新入社員に仕事をお願ひするのも申し訳ないなあって思っ「あ、いいから、」って言っているかもしれない人です。ここで察する気がない人は、「上司が「いい、」って言ったから...」って言うと思います。だから、そんな時は「なにか手伝いましょうか?」じゃなくて、「手伝います!」って言うんです。自分にできそうなことだったら、言われなくても「これ、私がやります」とか「これ、コピーしておきますね。何部ですか?」って言えば上司は「あ、ありがとう、」って言うかもしれません。そう、修学旅行でスリッパを並べ直してくれていた2年生のように...



すぐにできるようになることではないかもしれませんが、『本当はどう思っているんだろう?』『あの人のために、自分は何が出来るんだろう?』と察しようとして、察する力、気づく力は磨かれていきます。四中のみなさんには、察する力を磨いてほしいんですよ。これは社会に出た時の大きな財産となります。社会に出た時、「今年入ってきた〇〇さんはすごいね。なかなか今時の若い子で、あんな気のきく子はいないよ。察してくれるんだよね、こっちの気持ちを。普通だったらこっちはいかなーいよ、でも、あの子はすごい!」って、そんな人になりたいじゃないですか。どうせなら。

だから中学校の間に(進学してもですけど) **察する力を磨いてください。**担任の先生や、クラスメイト、親や部活の先生は上司と同じですよ。「先生は何をしてほしいのかな?」「友達のために何かできるかな?」「何か手伝えることはないかな?」「クラス、学校、チームのために自分は何が出来るだろう?」そう考えて、**気をきかせて、さりげなく動く...** そういうことを大切にできたのが日本人なんですよ。♪

「あの人は、本当は何をしてほしいのかな?」「あの人のために、自分には何かができるかな?」と考えることで、察する力は磨かれていきます。今、察する力が足りない、と思っている人でも、「察しよう」と努力することで力はついてきます。

察する力を磨きましょう!! 今からです!

4月から、この字の汚い学校便りにおつきあいいただきありがとうございます! 学校の様子は担任の学級便りにのせてあるので、保護者向けとか、生徒向けとかわからない、こんな通信となってしまいました。すみません。

自分がこんな中学生だったらなぁという思いと、自分の子育ての反省から出てくる思いをダラダラと書かせてもらっています。親子の話しネタにでもなれていければいいです。来年も、どうぞ、四中の教育に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

返信いつもありがとうございます。ご意見等は職員とも共有しながら私たちがふり返ります。今後ともよろしくお願いいたします。



返信用
QRです